

# 組拡ニュース

第12号 H27. 4.20

日本ボーイスカウト福岡県連盟  
～組織拡充委員会～



## 真剣になる時・今

26年度福岡県のスカウト数目標はBV-VS年代100人に対し0.53人でした。

県内対象者数・・・527, 417人 26年度スカウト数実績・・・1658人  
実績=0.31人/100人

27年度は23年3月に承認の日連事業方針最後の年となり目標=0.56人です。  
該当スカウト初期登録数は1341人・・・くやしい!! けれど0.56人は望めない??  
もてるだけの意地として

26年度実績=0.31人/100人達成を・・・最低維持目標に置き・・・  
達成の為の目安

BVS・8名 CS・12名以上 増員はBV隊・CS隊中心に  
BS隊・VS隊は中途退団を限りなく0にする。

今 動く時 スカウティングの全成人が強力なコミュニケーションで

組織拡充委員長 平田珠子

## 追加登録状況(H27年3月末)

地区	BV		CS		BS		VS		RS		スカウト計	指導者計	団委員計	スカウトクラブ	総合計
	S	L	S	L	S	L	S	L	S	L					
北東	39	24	60	37	97	31	47	15	36	11	279	118	100	0	497
北西	48	30	102	45	94	42	44	20	35	9	323	146	94	12	575
福東	43	25	86	65	101	47	65	30	48	7	343	174	91	29	637
福中	17	9	37	27	67	21	27	12	59	11	207	80	77	10	374
福西	63	25	83	39	110	23	51	16	58	8	365	111	110	6	592
福南	63	30	159	82	102	46	53	17	51	20	428	195	115	20	758
合計	273	143	527	295	571	210	287	110	287	66	1,945	824	587	77	3,438
26年初期	181	135	464	269	550	208	258	108	291	64	1,744	784	567	75	3,175
増減	92	8	63	26	21	2	29	2	-4	2	201	40	20	2	263

## ～組拡のヒト・アイデア・意見～

### 8. 24 組織拡充研究会 参加23ヶ団その後の動き報告(第3弾)

#### 研究会の目標と進め方

\*自団を良く知り独自のアクションプランを作成し実施・展開する。

組拡ニュース11号で報告いたしました。12月末の追加登録0は20ヶ団でした。年度末まで、残り少ない中での動きを見せた団(A団)を、紹介します。A団は、過去5年毎年追加登録0でした。26年度も12月まで0  
1月スカウト4名(CS・3名 BS・1名)2月スカウト3名(CS・3名)計7名追加この頑張り、所属地区12ヶ団中8.24参加団7ヶ団が揃って有追加団となりました。

この団の頑張り状況は、次号で紹介できると思います。

参考策にご期待ください。

## ～6/21(日)は全国ORIZURUキャラバン～ 福岡会場：福津イオンモール

### ねらい

23回WSJのプロモーションとして、広島ピースプログラム”ORIZURU”プロジェクトの実行と、全国イオンモール店舗で実施することによって一般の方にも同大会を知っていただく機会とする。会場では、一般の方にも折り鶴を作っていただき、平和活動に参加いただくとともに、プログラムを体験することで、スカウト活動の素晴らしさを肌で感じていただく。折鶴プログラム・世界にとどけ平和のメッセージ他BS体験コーナー会場内でシールラリー実施。主催：ボーイスカウト日本連盟・47都道府県連盟協力：全国イオンモール ヤマト運輸株式会社

大会100日前から1ヶ月前 2015.4/9～6/28 実施

福岡会場 6月21日(日) 福津イオンモール 10:00—16:00 会場で待ってま～す。

## ～委員会だより～

平成26年度全国会員拡充担当者会議(サミット)開催

27年3月14日～15日 兵庫県神戸市こうべ市民福祉交流センター

全国47都道府県中21県連盟より29名参加 福岡県連盟より平田・小田2名の組織拡充委員が参加しました。

\*サミットの目的・・・全組織を挙げて会員拡充に取り組むために ビーバーの募集はもとより、カブスカウトの募集にも注力し取り組むことを掲げているが、これらを実施展開する団・隊との意識合わせ 共通理解を得る。

\*サミットの目標・・・活動の主体は団・隊であることから、活性化している団の活動を知る。どのようにしたら団が活性化するかを抽出する。

- ・若い保護者へのBS運動の利点の説明をどの様にすれば協働できるかの理解は
- ・仲間が増える実践をするための達成目標を設定する。

S・Aランク団の活動発表では成果に繋がった小田委員の発表に質問集中でした。

真剣になる時・今 を強く意識したサミットでした。